

## 論文審査結果の要旨

論文提出者	(氏名) 松尾嘉之
論文審査委員	主査 池邊哲郎 印
	副査 尾崎正雄 印
	副査 湯浅賢治 印
論文題目	Characteristics of maxillofacial morphology of Angle Class II patients with temporomandibular disorders involving crepitus
<p>(論文審査結果の要旨)</p> <p>本研究は、咬合が Angle II 級で骨格性上顎前突症の患者のうち、クレピタスがある患者 (Crpt 群) 24 名とクレピタスがない患者 (非 Crpt 群) 24 名のセファロ分析結果を比較し、両者の顎顔面形態との相違を明らかにすることによって骨格性上顎前突症患者の矯正治療に役立てることを目的としている。その結果、Crpt 群は、非 Crpt 群と比較して、角度分析では、①下顎枝傾斜角が大きい、②下顎下縁平面角が大きい、③切歯歯軸角が小さい、長さ分析では、①下顎枝が短い、②下顎長が短い、等により、下骨骨が有意に後方に位置し、後方回転 (時計回転) していることがわかった。また、over jet に関与する因子を重回帰分析することによって、Crpt 群では①下顎枝の長さと②上顎切歯の歯軸傾斜角が、非 Crpt 群では①Wits appraisal (上下顎の前後的關係) と②上下顎切歯の歯軸傾斜角がそれぞれ抽出され、両群の形態的違いが明らかになった。</p> <p>このような結果から、下顎頭の吸収や下顎枝が短い症例では、咬筋の筋収縮方向の変化が生じ、下顎骨の後方回転 (時計回転) を助長し、結果として上顎前突となることが示唆され、矯正治療においても下顎の反時計回転を促すことが重要となる知見が得られた。</p> <p>以上、骨格性上顎前突症に絞って下顎頭の骨変化の有無について比較した点に本研究の新規性があり、臨床的にも有益な情報が提出され、学位論文に適切であると判定した。</p>	